

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000047		
法人名	社会福祉法人 健寿会		
事業所名	グループホーム なごみ		
所在地	佐賀県佐賀市富士町大字小副川562		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成22年5月11日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojohou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成23年3月4日	外部評価確定日	平成23年4月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>自然環境に恵まれた山紫水明の地で四季折々の美しい景色と温泉入浴を楽しんでいただき、日常生活の中でリハビリを取り入れ、家庭的で安らぐ生活を送っていただけるようサポートしている。また、各々入居者の残存能力を活かし個別に対応している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>経営母体の病院に近く、介護老人福祉施設や通所系・訪問系の介護サービス事業所と隣接して建つグループホームである。隣接事業所とは祭りや行事、ボランティア訪問、日々の散歩での立ち寄りなどの相互交流がなされており、入居者の楽しみにつながっている。隣接事業所の利用者は地元の人が多く、地域に密着した事業所となっている。佐賀熊の川温泉に近く、四方に山や川が広がる自然豊かな小高い山の上に建つ事業所は、大きな空や緑の木々・花などで季節の移ろいを体感できる。また、熊の川温泉を源泉とした温泉をひいており、毎日の入浴の楽しみのひとつとなっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	一人一人個人として尊重し、地域の中で心のふれあい・あたたかさを大切にしたい寄り添うケアに努めることなどを運営理念としており、ミーティングの際も理念に基づいたサービスの提供ができるよう話し合いを行い、日々の業務に取り組んでいる。	地域の理解を頂きながら、家庭的で自宅に居るような生活を笑顔で支える事業所理念を作りあげている。理念を目に付くところに掲示し、日々の業務を通して理念の確認と実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設介護施設における行事に近隣の保育園、小・中学校また住民も積極的に参加いただき地域とのつながりはある。また、今年度は地元のおくちや地域の交流会に参加しているが日常的な交流は少ない。また、立地条件から困難な側面もある。	併設事業所との合同納涼祭には多くの地域住民の参加があり、盛大に開催されている。地域の祭りや季節の行事を通して地域と交流する事を心がけており、入居者と一緒に祭りや文化交流会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設介護施設と合同で地域の方を対象に介護者教室を開催している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し、日頃のサービスの内容や評価の取り組みなど情報提供を行い、地域の方からの意見や感想など多くいただきサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は地域の情報を得る機会と捉え、地域代表や民生委員、行政職員、入居者家族などの参加で開催されている。入居者の状況や活動内容を報告し、意見交換がなされている。情報交換や意見発表の環境づくりに一部の部屋を提供するなど、出された意見は運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域の事業や法人の事業など随時話し合うようになっている。	経営母体の法人が行政との窓口になっているが、運営推進協議会の参加を通して市の担当者とは直接情報交換できている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を開催しており、内容をミーティング時に全スタッフに伝達、また、マニュアルの周知徹底や研修に参加し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関する指針がある。毎月2回身体拘束廃止委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。入居者は自由に行動でき、職員は見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	併設施設と合同で高齢者虐待防止委員会を開催しており、研修の実施・話し合いを行い具体的な介助方法をスタッフ間で共有し虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	併設施設での研修会や機会があれば外部の研修会への参加をしている。必要性のある方は併設施設の担当者と連携し相談を受けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間をかけ、家族や利用者やゆったりとコミュニケーションを図れるよう配慮し不安や疑問が残らないよう関わりを行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見・要望は普段より伺い、介護記録に残し、ミーティング等でスタッフ間で周知し、サービスの向上に努めている。また、現在のところ苦情はないが、随時受け付ける体制を整えている。	家族の面会時に意見や要望を聞くように努めている。面会の少ない家族には電話で意見や要望を聞いている。重要事項説明書に苦情申立先を明記し、家族に説明している。玄関には投函箱も設置されている。寄せられた意見や要望は検討し、運営に活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを実施し、管理者・職員との意見交換を行っている。	職員会議や運営会議を開き、運営者や管理者は職員と話し合う機会を設けている。主任は常に職員と話し、要望や意見を聞くように心がけている。職員は日々のケアの中で気付いた事は管理者や主任に伝えるように努めている。出された意見や要望は運営に活かせるように検討がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状態や会議等での様子を総合的に見て、個々の課題づくりや役割等の見直し、研修への参加を促す等行い、向上心が持てるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会やミーティング等を利用し行っている。また、可能な限り研修を受ける機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内の他事業所の職員との交流、意見交換等を定期的に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日頃よりコミュニケーションを図り、その中から気持ちを汲み取りケアを行っている。また、スタッフ間で情報交換し共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居されてからも面会時や電話連絡の際に機会を作り対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本情報やアセスメント作成時に情報収集を行い相談内容に応じ、医療・相談機関等の利用を行うよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事や慣わし等で利用者の方より学んだり、支えあう関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話連絡の際には必ず本人の状態をお伝えし、また、行事参加の呼びかけを行い共に過ごしていただく機会を作っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みにされている美容室に現在も家族と共に行かれたり、併設施設に近隣の方もおられ訪問の際はお話される機会を作り支援している。	入居開始時や日々のケアを通じて、本人の生活歴や人間関係・地域社会との関係の把握に努めている。家族との係わりを大切にし、家族との墓参り支援や馴染みの美容室利用、友人が訪問しやすい環境づくりなど、職員は入居者の人間関係を把握して支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の様子観察から相性等を把握し、座席の位置や利用者同士の関わりあい、まとまりがある人間関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時に必要な時は相談に応じ、サポートを行う事を説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人とのコミュニケーションの中から意向や希望を汲み取り、本人の思いに即せるよう努めている。	職員は入居者に寄り添い会話する事を心がけており、毎日の生活の中で情報を得るように努めている。希望や意向を表すことが困難な入居者には、本人の立場に立って考えたり、言葉や態度から思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族より情報を得たり、話題等に取り入れる等配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各勤務帯で記録の申し送りを通じ、情報を共有しながら1日の様子の把握に努め、定期的な話し合いの場を持ち、アセスメントに反映させている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月カンファレンスを実施し、スタッフ間で意見を出し合い、みんなで介護計画を作り上げている。家族からも面会時等で要望や自宅の様子などを伺い、計画に反映させている。	入居者や家族からの要望を聞き、主治医や職員が話し合っ具体的介護計画が立てられている。職員は日々のケアの中で入居者の変化や異常を感じ取るように心がけ、介護記録に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に排泄・食事・服薬・水分摂取量、経過等記録をとっており、各勤務帯で対応の様子や変化等具体的に書くよう努め、勤務者同士の情報の共有と介護記録の反映に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族との会話の中から、または状況が変わった時等の面接の中から要望を取り入れ支援を行うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	法人全体としても民生委員やボランティア等の交流を行っており、その際グループホームも交流を行い協力しながら支援していくよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居・受診時に本人・家族と相談し、支援しており、かかりつけ医と連携をとっている。	入居者や家族の意向を大切に、事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医の継続受診を支援している。通院などの送迎は、本人や家族の要望に沿って支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	専任の看護師が利用者の状態を把握し健康管理に努めている。また、利用者の状態変化時は報告・相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には定期的に面会に行き、本人の状態の把握と病院関係者と情報交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医や家族と随時話し合いの場を持ち、先々の方針の検討と情報の共有を行っている。	契約時に本人及び家族に説明し同意を得ている。入居者の状態に合わせて主治医や家族と話し合いを持つ体制ができており、家族と職員や主治医は方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時は報告を行うと共に処置・対応については勉強会なども行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルをスタッフが周知しており、地域の消防団参加の併設施設との合同避難訓練を行っている。	隣接事業所合同で入居者も参加して年2回消防避難訓練・避難誘導訓練が実施されている。災害に備えて、食料と水は法人内で共同備蓄している。	昼夜を通じた様々な発生時間を想定し、地域の人々の参加や協力を得ての避難訓練の実施も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の違いの尊重やさりげない支援、礼儀をわきまえた言葉使い等対応している。	個人情報の利用目的を明確にし、入居契約時に家族等に説明して同意書が交わされている。写真など個人を特定できるものの取り扱いは注意し、外部に出す場合はその都度家族等に確認をとるなど慎重に取り扱われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事やその日の作業等、日常の中で場面を作るよう配慮しており、介助の前は本人の同意を得てから対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床時や就寝時間等生活の流れを利用者のペースに合わせて行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝・入浴後等一人一人職員がついて本人の意向を第一に考え整容を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は出来るだけ共に食事を摂るようにしており、楽しみながら食べていただくよう配慮を行っている。また、個々の能力に応じて、下準備・食器拭き・配膳等していただいている。	食事の下ごしらえや調理伝授、配膳・下膳など入居者ができることは職員が見守りながら支援している。基本的な献立は決っているが、入居者の嗜好や食材による献立の変更も柔軟に行われ、誕生会には誕生月の入居者好みの献立が用意される。味付けは美味しく目と舌で楽しめるよう支援されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は併設施設の管理栄養士が作成しており、摂取量(食事・水分)はチェック表により把握。排泄面も考慮し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施しており、義歯を使用されている方は、毎日義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表によりパターンを把握し支援している。また、誘導・介助はさりげなく行い、失禁の対応は、まず人目のつかないところに誘導する等十分に配慮している。	入居者一人ひとりに合わせた排泄の自立支援を心がけている。排泄パターンを把握し、トイレで排泄できる様に支援しながらパッドなど本人の必要に併せて使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維、牛乳を多く取り入れ、状態に応じてリンゴ酢やプルーンを使用し出来るだけ自然排便を目指している。また、日常生活の中で運動を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせて入浴の支援をしている。	入浴希望があれば夜間を含めてできる限り支援するように心がけている。風呂は天然温泉であり、入浴の楽しみになっている。入浴を拒まれる入居者には無理強いせず、時間や対応を変えたり声掛け等で入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の様子も記録に残し把握を行い、また、日中の活動等を工夫し生活のリズムを整えるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の説明書を保管している薬と同じ場所に置いており、随時スタッフが内容を把握出来るよう努めている。また、与薬前にはスタッフ2名で確認し服薬チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの好みや得意な分野を考慮して利用者と相談しながら行っている。また、外出・散歩等により気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で開催される行事・クラブ等へ本人の希望に沿って参加しており、家族への声かけにて共に外出される事もあり。	敷地は広くホームや隣接施設から見通しが利くつくりで、入居者は自由に戸外へ出て散歩し職員は見守り支援している。行事参加や花見、買い物、ドライブなどの外出支援も行われている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人一人の希望や能力に応じて金銭管理をしており、外出や使用する機会の際に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ行っており、家族にも協力していただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音の大きさや光の強さに対する配慮は必要に応じて十分行っている。リビングに畳の間の設置やソファを置いたり、また、季節に応じて壁飾りや生花を飾る等家庭的な雰囲気作りを行っている。	ホーム内は木質調に色彩が統一され、温もりのある優しい落ち着いた雰囲気となっている。花や手芸作品などで季節を感じる雰囲気作りがなされている。食事時はテレビを消して心地よい音量の音楽を流したり、ホールは自然光や間接照明でやさしい光の調節をするなど、入居者にとって不快な音や光がないような配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳の間やソファを置いたり、リビングスペース等お気に入りの空間を選択出来るよう努力しており、テラスにテーブル等設置し有効活用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人により持ち込まれている家具等の量は差がある。ホーム側でも個人の好みに合わせて写真を飾るなどの工夫をしている。	居室は広く希望の品の持ち込みが可能で、机やイス、テレビ、位牌などを持参されている入居者もいる。職員は家族や本人に自宅で使用していた物品の持ち込みを勧めている。居室には自分で描かれた油絵やカレンダー、写真、手芸品などが飾られ、その人らしい居室作りが支援されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	最初は必要の無かった浴槽の手すりや滑り止めのマット、シャワーチェアを設置し、キッチンの作業台の高さも利用者に合わせて低くする等の配慮をしている。また、トイレ迄の距離も短く数の確保も出来ている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない